

経営者にガッツが もとめられている時代

明治安田損害保険株式会社

代表取締役社長
重森 豊氏

信頼関係を構築することからビジネスはスタートする。それが私の持論です。私は三十年ほど前、その考えにもとづき異業種交流会を立ち上げ、その会は少しずつ形を変えながら、いまも脈々と続いています。『CEO社長情報』という雑誌の企画を聞いたとき、そういう雑誌を核にした交流のあり方もまた、大きな可能性を持つ面白い方向性だなと感じました。誌面を介してたがいに知り合い、そして実際の交流へとつながっていく。その交流から生まれた情報や人脈が、再び誌面へと反映され読者に共有される。まさに新しいタイプの読者参加型の雑誌ではないでしょうか。

また、私は、いまこそ経営者のガッツが求められている時代だと思います。全国の経営者の皆さんが、この『CEO社長情報』を大いに活用し、人脈を広げビジネスチャンスをつかみとることを心から応援しております。



CEO社長情報

日本を牽引する 新たなリーダーたちが 生れ出ることを願う

ヒーローズエデュテイメント株式会社

代表取締役会長
秋沢 志篤氏

いまという時代は、ことに日本人が東日本大震災を体験した後では、これまでの既成の概念にとらわれたやり方が全く通用しなくなっています。かねてより私たちは、次世代を担う子どもたち若者たちのための新しい教育に取り組んできましたが、震災を経て、以前にも増して新たなリーダー育成の必要性を、ある種の危機感を持って痛感するようになりまし。微力ながら、被災地の子どもたちの

応援します。

自立支援への取り組みを始めている私たちですが、もとよりこうした活動は幅広いネットワークに支えられてこそ実現し成果が得られるものです。そしてそこには、これからの日本をどうしていくのかという大きなビジョンが必要不可欠です。『CEO社長情報』が、そうしたビジョンを生み出す機縁となり、さらにはそこから日本を牽引する新たなリーダーたちが生まれ出ることを願ってやみません。



見出しなし見出しなし見出しなし

株式会社読売情報開発

代表取締役社長
西山 広文氏

私は雑誌に関して、一つの面白い記事さえあれば、他は興味がなくとも毎回とって読んでしまうタイプの人間です。そんな記事は連載物が多いのですが、今回『CEO社長情報』の創刊特集企画を仄聞、その一部をたまたま拝見したのですが、実にこれが面白い。若い経営者たちの「情熱と冷静の間」とでも呼ぶべき姿勢に深い興味を覚えました。今後の日本経済をどうすべきかまではさておき、これからの読者サービス、これからの販売店活性化について日夜頭をフル回転さ

せている私にとって、あるヒントを得た気がします。

もちろん、困難は自分の頭と力で切り拓いていくよりほかに道はありません。しかし、この雑誌には経営のアイデアと経営者の本音が詰まっています。読者はこれを生かささない手はありません。自分なりのポリシーと経営ビジョンを見出す一助となる雑誌、中小企業経営者を後押しする雑誌として、貴誌が確かな存在感を示してくれることを大いに期待しています。



どれだけ多くの 経営者を巻き込んで いくのか楽しみ

社・本郷税理士法人

理事長
本郷 孔洋氏

「魔がさした」の反対語は「神がさした」なのだそう。日本に神がさすのはいつなのだろうか？ などと思いをめぐらす今日この頃、展望の『CEO社長情報』創刊です。いや、壮観です！ 表紙といい登場する社長の数といい。

仕事柄、私は多くの経営者の方々にお会いし、僭越ながらアドバイスのなどもさせていただいておりますが、私が彼らと話をするとき、いつも興味をもってするのは、彼らが経営に対してどんな考えを抱いているのかなのです。なんといっても、やはり会社は経営者の人柄によって大きく左右されるものですから。かつて新聞記者を志望していた私としては、『CEO社長情報』には、単なるビジネス戦略やサクセスストーリー紹介にとどまらないう、人の姿が見えてくる血の通った、深掘りした記事を期待しています。また、元『週刊ダイヤモンド』編集長の松室氏が今後、どれだけ多くの経営者たちを巻き込んでいくのかも楽しみです。

まずは創刊おめでとうございます。

